

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

本日（3日）02時13分頃に振幅の小さな火山性微動が発生しました。火山性微動の発生に伴う地殻変動は認められません。

また、火山性微動の発生直後に低周波地震が発生しましたが、その後は地震活動に特段の変化はみられません。

秋田駒ヶ岳では、火山性地震の増加が時々みられ、3月6日から14日にかけて低周波地震が発生しました。今回、火山性微動と低周波地震が発生したことから、火山活動が高まっている可能性がありますので、今後の火山活動に関する情報に留意してください。

また、女岳^{めだけ}周辺では噴気活動がみられますので注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1、図2、図3-②～⑤）

本日（3日）発生した火山性微動の継続時間は、八合目駐車場観測点で約1分10秒、最大振幅（上下成分）は $0.4\mu\text{m/s}$ でした。火山性微動の発生に伴う地殻変動は認められません。火山性微動が観測されたのは2010年2月24日以来です。

火山性地震は本日15時まで3回発生しており、そのうち1回は微動発生直後にみられたカルデラ付近が震源と推定される振幅の小さな低周波地震¹⁾です。低周波地震が観測されたのは3月14日以来です。

・噴気など表面現象の状況（図3-①）

東北地方整備局が設置している監視カメラによる観測では、天候不良のため状況を確認できません。

・地殻変動の状況（図2）

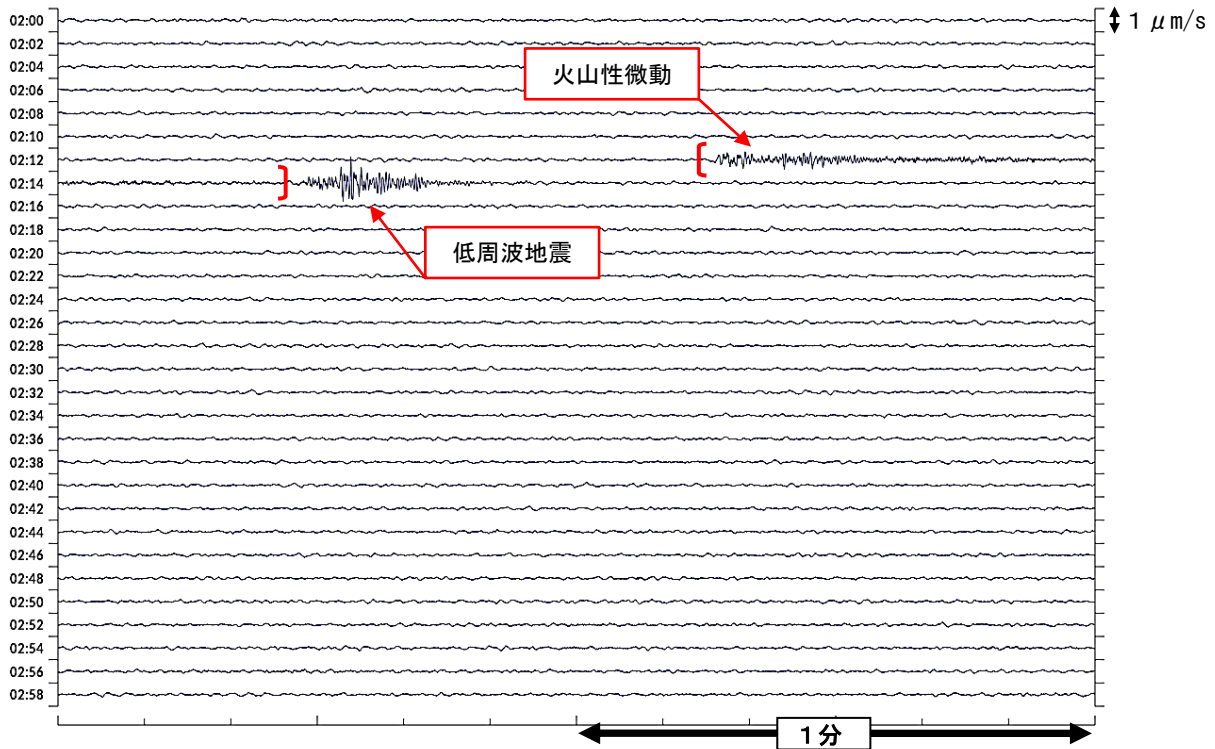
火山活動によると考えられる変化は認められません。

- 1) 火山性地震のうち、P波、S波の相が不明瞭で、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震と考えられ、主に1～3Hzの低周波成分が卓越した地震です。火道内の火山ガスの移動やマグマの発泡など火山性流体の動きで発生すると考えられています。火山によっては、過去の事例から、火山活動が活発化すると多発する傾向がある事が知られています。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。



(2018年4月3日02時00分~03時00分)

図1 秋田駒ヶ岳 火山性微動及び低周波地震の発生状況 (八合目駐車場観測点 上下動)

- ・ [] は火山性微動の発生時を示します。最大振幅は $0.4 \mu\text{m/s}$ 、継続時間は約1分10秒です。

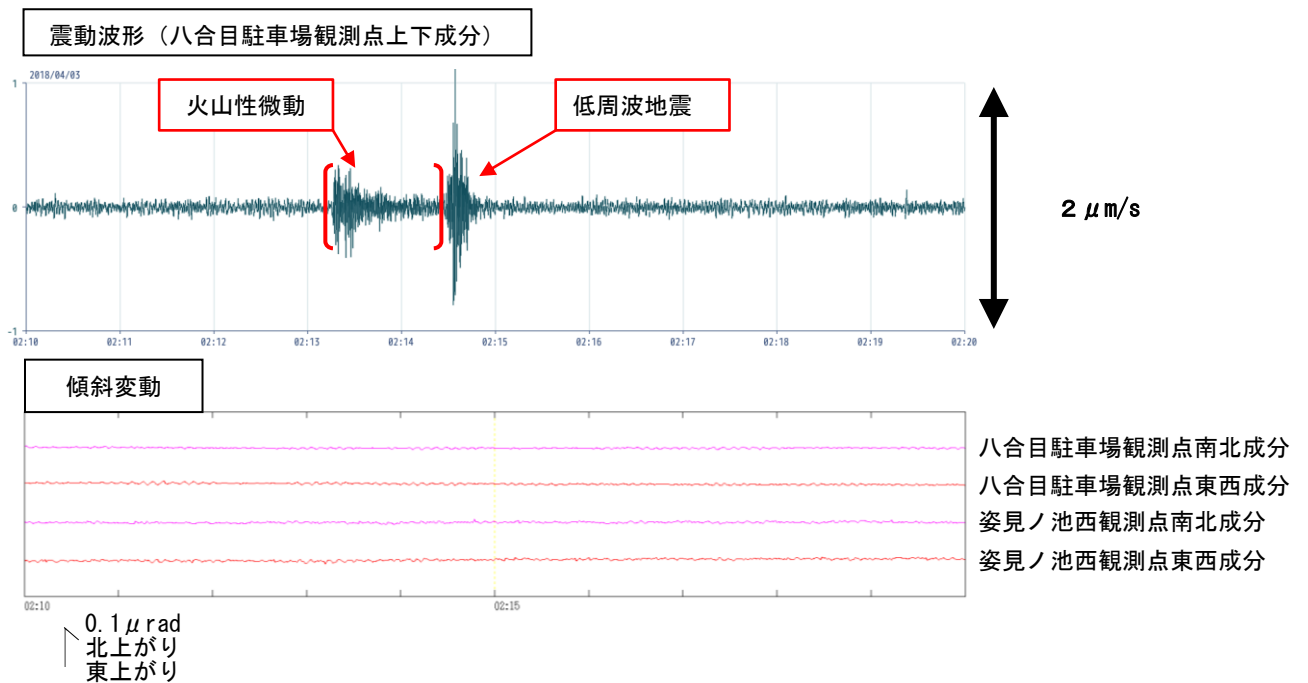


図2 秋田駒ヶ岳 震動波形及び傾斜変動

(2018年4月3日02時10分~4月3日02時20分)

- ・ [] は火山性微動の発生時を示します。最大振幅は $0.4 \mu\text{m/s}$ 、継続時間は約1分10秒です。
- ・ $1 \mu\text{rad}$ (マイクロラジアン) は、1 km 先が1 mm 上下するような変化量です。
- ・ 火山性微動の発生に伴う傾斜変動は認められません。

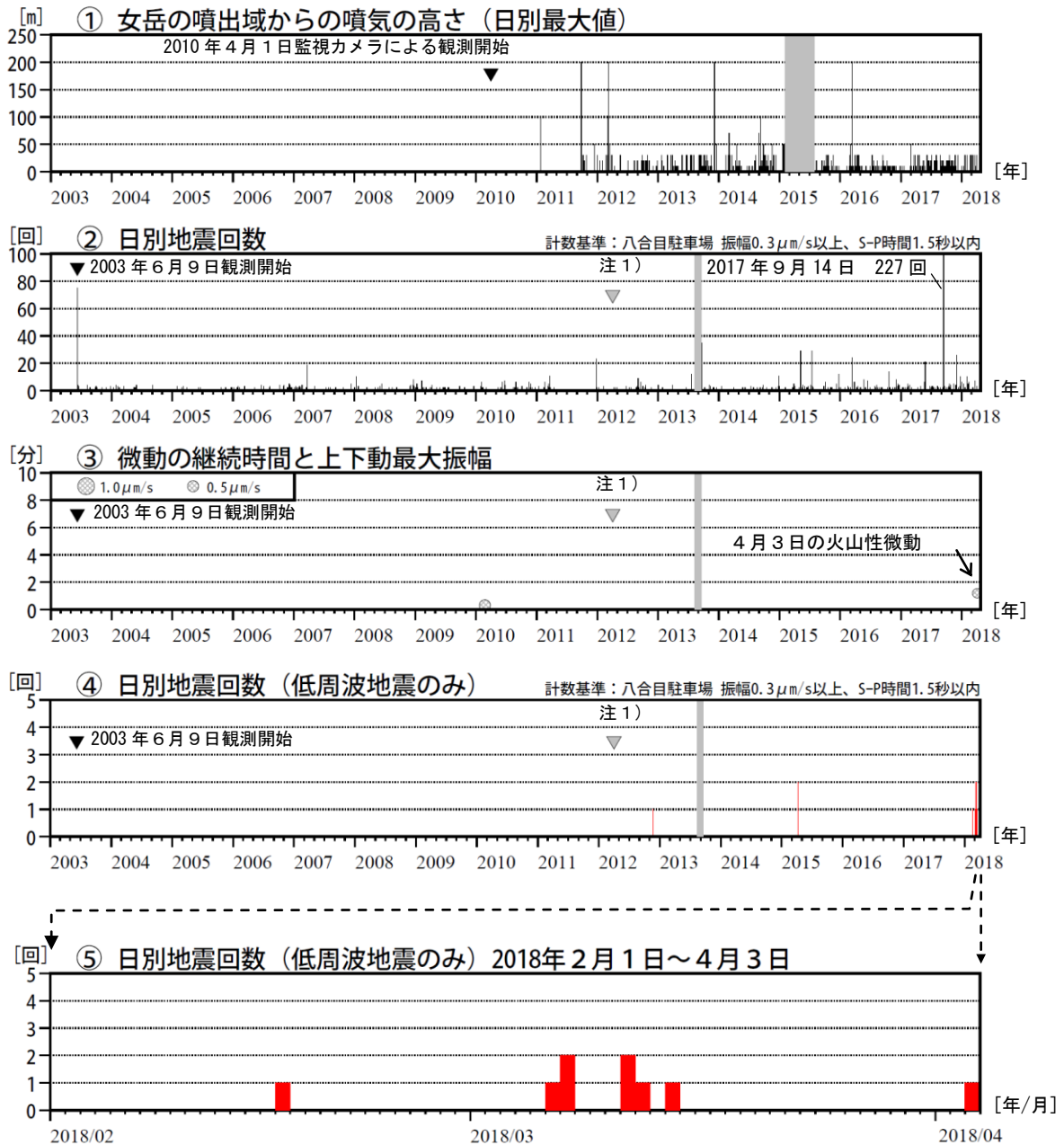


図3 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月9日～2018年4月3日14時）

- ・①仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による観測です。
- ・①～④の灰色部分は欠測を表しています。
- ・データは速報値を含んでおり、精査後修正する場合があります。

注1) 観測開始の2003年6月9日から東北大学秋田駒ヶ岳観測点を基準としていましたが、2012年4月1日から八合目駐車場観測点を基準としています。

